

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践に繋げ易いように掲示している。	基本理念に基づく実践を通して、職員提案のホームの職員理念「3つのお約束」をユニット会議等で検討し、作成している。基本理念は運営規程に記載し、利用者、家族に説明、3つのお約束は玄関に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	防災備品の倉庫提供や町内役員と交流がある	町内会に加入し、地域情報を得て利用者は区民運動会、地域サロンなどに参加し、ホームの納涼祭は住民との交流の場となっている。ボランティアの受け入れ(ハーブ・琴)や近所の鮮魚店によるブリの解体ショーも計画されている。地域との交流を発展させるため認知症の研修会も予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	住民向けの研修会を予定したい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的を開催し、サービス向上に繋がっている	会議は2ヶ月に1回開催され、会議録によれば、ホームの状況、事故などオープンに報告され、活発に意見交換が行われている。御所の内通信の地域配布の改善、医療加算の再説明の要望などに応えている。メンバーは家族会代表、町内会会長、副会長(民生委員)、地域包括支援センター職員で、防災関係の参加がなく、議事録は家族に配布されていない。	地域との防災協定を結ぶために、防災関係者をゲストスピーカーに招くなどメンバー加入への努力と議事録を全家族に送付しホームの状況の周知を図ることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター、区介護課と密に連絡を取っている	事業所は法定報告等で区介護課と連絡・連携し、区主催の事業所連絡会に参加し情報交換している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠の開放に取り組んでいる	交通事故防止のため、玄関は施錠されているが、利用者が出かけたときには出かけられるようにしている。拘束禁止を入居契約書に明記し、利用者家族に説明している。拘束防止マニュアルを作成し、スピーチロックを含む接遇人権研修を行い、拘束しないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現場でその都度指導し(スピーチロック等)、研修も行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	開設時研修で実施		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章・口頭で十分に説明している。入居後の相談・フォローも行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会家族とはコミュニケーションを取るようになっている	相談・苦情対応を重要事項説明書に記載し、利用者・家族に説明している。意見箱も設置され、マニュアルは整備されているが、苦情対応の掲示がなく、苦情記録はあるが、相談記録がない。利用者の暮らしを伝える毎月の便りもない。面会や誕生会などの行事などの時に家族の意見を聞き、ブログのこまめな更新要望に応え、利用者には担当職員を決め、近隣への買い物など日常的に要望に応じている。外部評価結果を家族会を開き、意見交換する計画もあり、意見を運営に反映させる姿勢を示されている。	相談・苦情受付の掲示を行い、相談記録を整備するとともに、意見をより言えるように、毎月、利用者の様子を伝える便りを家族に出されることを望みます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場の意見を聴く機会を設けているが、もっと意見が出れば良いと考えている	毎月のユニット会議、リーダー会議や年2回の人事考課の個別面談、職員主体の委員会(研修・行事・食事)を行い、意見反映に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善を含め鋭意努力している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加している。ホーム内の内部研修もあり、職員は参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や、地域包括事例発表に協力している		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族・本人の話を傾聴するなどし、信頼関係を築くよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時にホームでの様子を伝え、要望などを伺い援助に繋げている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	弊社に訪問マッサージもあり、お試し利用などを勧めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などを一緒にしたり、本人の「出来る事」を大切に支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子を伝えたり、行事にも参加して頂くなどしている。お誕生日会に参加して貰い、一緒に祝っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのスーパーやお店に行き、馴染みとなった人に挨拶したり会話をしている。その方がホームに面会に来られる事もある。また、昔から馴染みの理髪店も利用継続している	通いなれた美容院や理髪店を継続利用される方、馴染みの店での買い物を楽しむ方、喫茶店で憩う方、利用者それぞれの意向に沿う支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介に入りコミュニケーション作りをしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もフォローしている家族様がいる		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で傾聴し把握するよう努めている	記録はセンター方式を利用し、暮らしや心身の情報と共に、利用者個々に食事の嗜好・買い物は・公演は・趣味(ちぎり絵・将棋)等、細部にわたる情報収集が出来ている。日々の業務の中で利用者・家族の思いを聞き取り、毎月のカンファレンスで職員間の共有が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	機会ある毎に知ろうと言う取り組みを行っているが、全員を把握しているとは言えず課題がある		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムや行動は、申し送り、記録に残すようにしている。家族の面会時に聞き取りを行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態や思いを理解し、家族とそれらを共有しながらスタッフで意見を出し合い、その人らしさを大切に支援している	入居時は2～5日間、24時間生活変化シートの記録をつけ、生活リズムの把握を行っている。個別援助計画は利用者・家族に聞き取りを行い、入居後1か月で、その後は3か月毎にモニタリング(ユニット会議)を行い見直し修正し、基礎情報も更新している。経過記録記載時は、援助計画をみながら計画に沿った記録が出来ている。職員は1～2名の受け持ち制であり、毎月のカンファレンスで情報の共有やケアの統一を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスを実施しスタッフ間でケアを統一し、本人の思いに沿ったケアプランにする為の見直し等も行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の小規模多機能施設と協力している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	食材の購入などを含め地域資源の活用を模索している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同グループである京都武田病院と協力するなど、家族様とも話し合う機会を持ち、支援している	かかりつけ医の選択は、利用者・家族の意向に沿うことを基本にしているが、連携病院の京都武田病院を希望される方が多い。月2回の内科医往診の内、1回は個人面接を行い利用者(家族)・職員に医療面での情報提供が行われている。看護師は常勤で勤務し看護に当たっている。他に希望者には歯科医や歯科衛生士の訪問診療がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一番身近にいる存在として、いつもとの様子の違いにいち早く気づき、早期発見早期対応を心がけている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同グループの京都武田病院との協力体制や、入院先にスタッフが様子を伺いに行くなど支援を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前意向確認書や看取りに関する方針など、文章・口頭で確認している	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」に沿って、利用者・家族と話し合い、「事前意向確認書」を受けている。開設時に研修を行い、外部研修「看取りのケアプラン立案の仕方」に参加して学びを深めている。この一年間対象者はおられない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修でも学んでおり、現場OJTでも確認している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	介護課・消防とも相談し防災マニュアルを作成している	事業所建物は鉄骨で軽い材料で建設されており、震度7に耐える構造になっている。消防署立ち合いのもと、昼・夜を想定した火災訓練を年2回行っている。建物の北と南側に避難階段があり、利用者と一緒に避難している。近隣の町内会に防災協定に向けて働きかけているが、地域の方の参加は得ていない。備蓄(水・食料)3日分は、地域の方の分も考慮され京都武田病院でしている。	地域の防災訓練に参加し交流を深めると共に、近隣町内会との防災協定は早期に結ばれることを期待する。また、近所の方や、運営推進会議メンバーへの協力依頼をお勧めする。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の個性を尊重し、その人にあった声掛け、気配りを行っている	院内研修で「接遇人権研修(スピーチロックを含め考える)」を行い、「ちょっと待って・パットとって・食事まだ？」の言葉は使用しない、あわただしい態度はとらない等注意されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を確認し選択枝を示すなど、分かり易く説明して支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望・ペースを尊重し、常に気遣って必要な声掛けも行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容には気を遣い、外出・イベント等には特別な配慮をしている。女性は使い慣れた整容品を継続して使えるようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が入居者と同じテーブルで、楽しく食事が出来るようにしている。おやつと一緒に作るなど楽しんで貰っている	昼食・夕食は別の階の厨房で料理しており、利用者がたずさわれないが、朝食・おやつは利用者の希望で献立し、食料の買い出しや調理から片付けまで利用者と一緒に進められている。事業所方針として、地域に根差した食材を使った料理をされており、特に魚はその日仕入れた鮮魚が届く。夏は鰻の天ぷらに喜ばれた。近日ブリの解体ショーが予定にある。朝食はパンかごはんの選択が出来る。季節料理や行事食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	刻み食やトロミの使用など個別に食べやすい方法を考慮し、摂取量や栄養の偏りなどにも配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施しているが、拒否の強い方には実施できていない場合もある		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンを把握し、その人にあった声掛け、誘導を行っている	排泄記録をつけ、排泄パターンの把握を行っている。声掛けや排泄パターン把握による誘導で、リハビリパンツから布パンツに変わった方が2人おられる。夜間ポータブルトイレ使用の方も、昼間はトイレ誘導出来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食材、乳酸菌を活用する等している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人のペースを尊重している	風呂は個浴で湯水は一人一人交換されている。同性介助で必要に合わせ2人介助を行っている。1日3人の入浴を目安としているが、2日に1回の方もおられる。こだわりのシャンプーや石鹸を使用される方もいる。入浴を拒否される方はいない。事業所内には最新のリフト浴が設置されているが、3階ユニットの利用者は今のところ使用されていない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具・室温などもその人に合わせている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人一人が入居者の疾病と服薬を理解し、誤薬防止に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	貼り絵・塗り絵・折り紙などの作品を掲示し、意欲が継続するように声掛けしている。喫茶や公園でお茶を飲んだり、一人一人にあった個人対応をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には外へ出かけたり買い物に行くようにしている。本人の希望も聞くようにしているが、その日に行けない時には話をし、別の機会を設けるようにしている	日常的に散歩を兼ね、日用品(カミソリ・電池・セロテープ・ハサミ・シャンプー・リンス)の買い物を行っている。月1回は利用者全員で、ドライブを楽しみながら少し離れた大型スーパーに行き、本屋・衣類・フードコートへと、それぞれ別行動で楽しむ支援が出来る。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ユニットで預かっているが、一緒に買い物をする時など、本人がお金を使える機会を作っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の携帯利用もあり、ホームの電話も利用している。お孫さんと手紙・はがきの遣り取りなどもされている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	人によって希望が異なっているが、こまめに声掛けして調整している。手作りの展示物などで季節感が感じられるよう工夫している	西と東側に窓があるリビングは明るく広く、設置されたテーブルや椅子・ソファが車椅子利用者に障害にならない通路が確保されている。一角に6畳の和室があり、朝寝・昼寝に使用の方がおられ、人々のぬくもりの中で安らぎを提供している。壁には季節感のある作品があり、見ごたえのあるちぎり絵に、謙遜しはにかまれる利用者の笑顔があった。清掃は毎日職員が行い、年2回業者の床ワックスがけが行われ清潔に留意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その人の落ち着く場所が決まっており、和室で横になり休まれる人も居る。居室、リビングと上手に使い分けされており、入居者同士のコミュニケーションも取れている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から大切なものを持参され、飾ったり使われたりしている。馴染みの物を尊重している	ベッド・エアコン以外は利用者持参で筆筒・衣装ケース・テレビ・鏡台・写真・電話・動物のぬいぐるみ等、思い思いに持参され、使用されている。衣類や布団の更新は家族の協力を得ている。室内清掃はモップかけの出来る方は一緒に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かり易いように工夫したり、自分の居室だと分かるように表札や飾りを付ける等している。		